

PMDA 医療安全情報

(独)医薬品医療機器総合機構

pmda No.42 2014年 2月

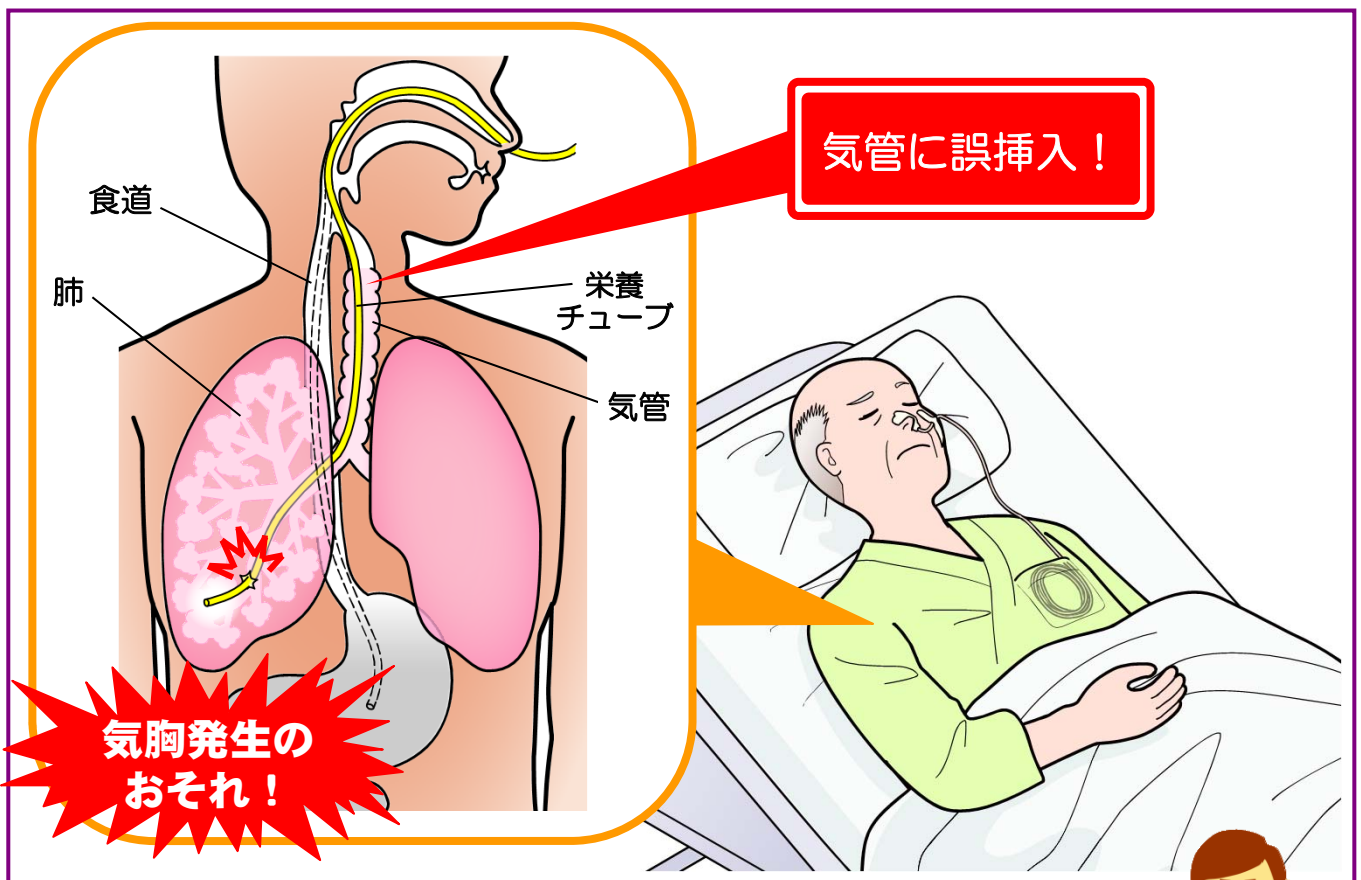
経鼻栄養チューブ取扱い時の 注意について

POINT 安全使用のために注意するポイント

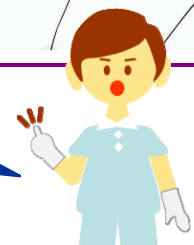
(事例 1) 経鼻栄養チューブを挿入し、気泡音で留置位置を確認したが、その後、患者が呼吸困難を訴えたため、胸部レントゲン撮影で確認すると、チューブが気管に迷入していた。

1 経鼻栄養チューブ挿入時の注意点

- チューブを挿入したら、複数の方法で留置位置を確認することが望ましい。

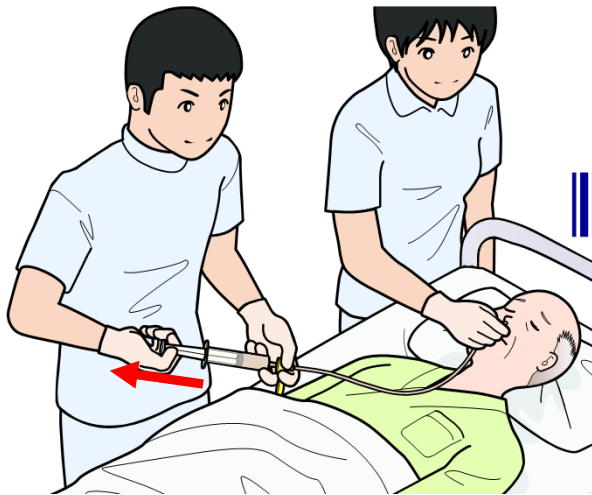


気泡音だけでは、チューブの位置を正確に確認することが困難な場合があります。



留置位置の確認方法

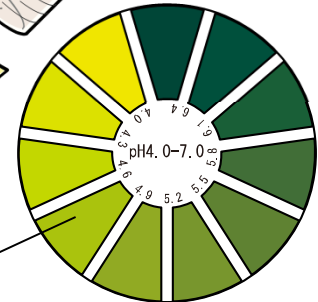
吸引によるpH確認



pH5.5以下であることを確認！

pH試験紙

標準変色表

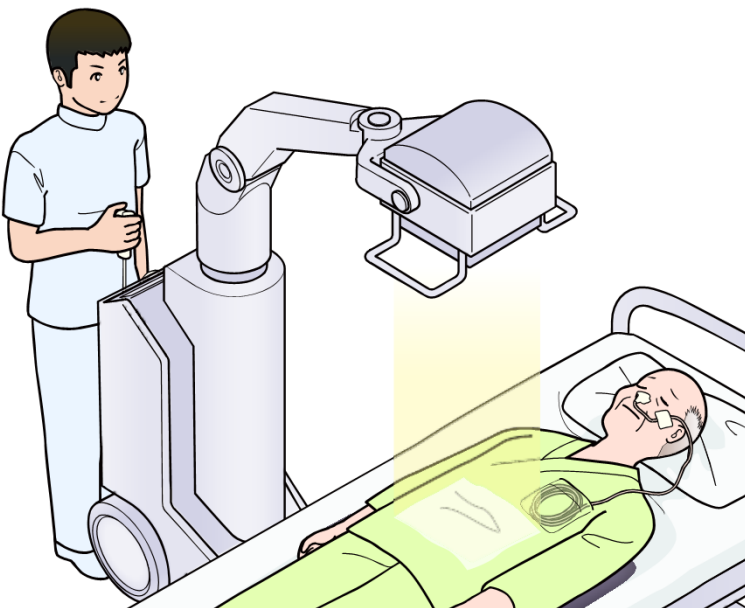


注) リトマス試験紙では、正確なpHを測定することができないので、pH確認にはpH試験紙を使用すること。



吸引された内容物が、胃の内容物かどうか、pH試験紙で確認しましょう！

胸部レントゲン撮影による確認



その他の確認方法

- CO₂検出器による確認
- 気泡音による確認

など

チューブ挿入後は、正しく胃の中に留置できているか、できるだけ複数の方法で確認することが望ましいです。

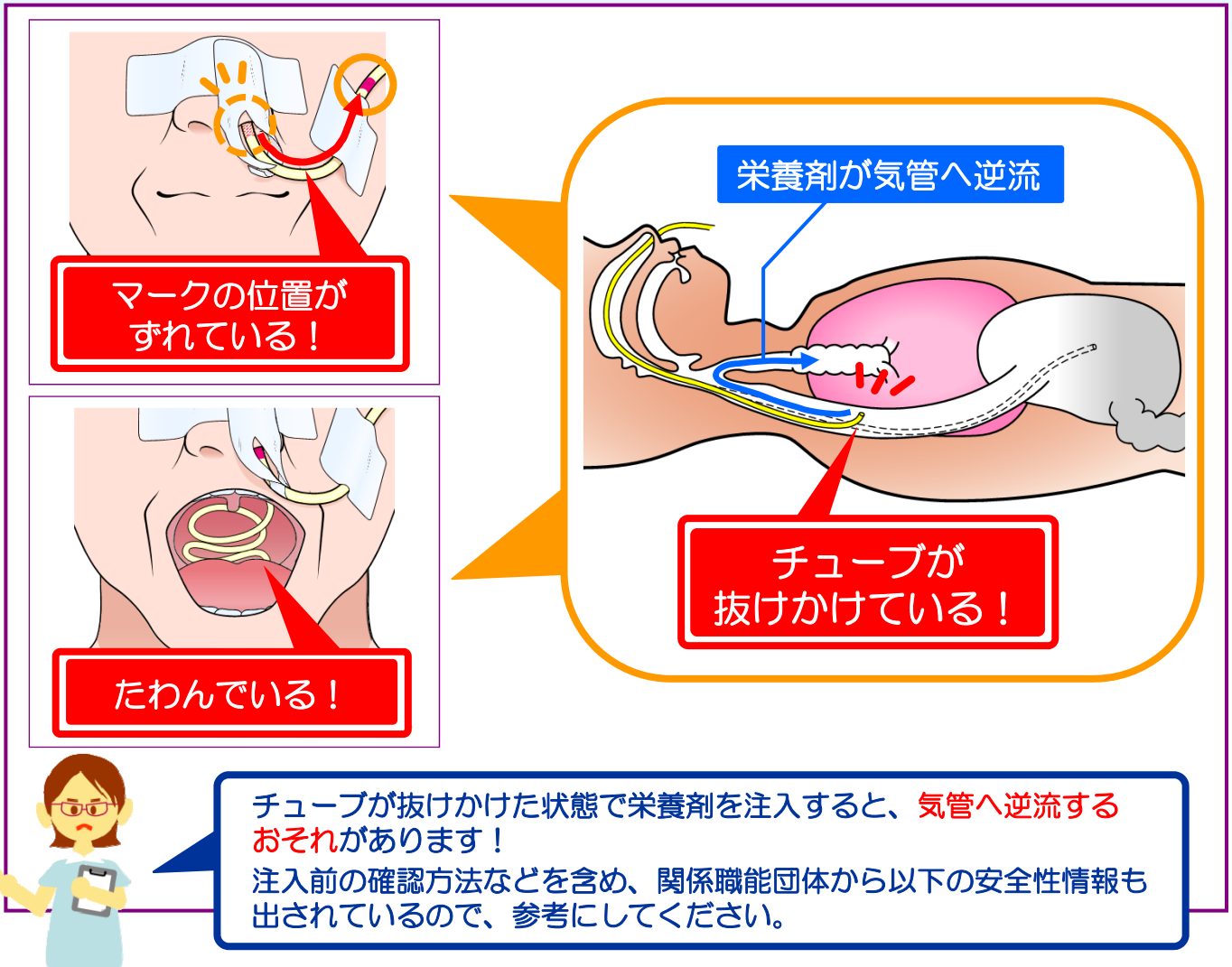


(参考) 医療の質・安全学会 医療安全全国共同行動企画委員会「医療安全全国共同行動 目標3a. 危険手技の安全な実施—経鼻栄養チューブ挿入時の位置確認の徹底」

(事例2) 経鼻栄養チューブが抜けかけていることに気づかず注入してしまったため、栄養剤が気管へ流れ込み、肺炎を引き起こした。

2 栄養剤注入前の注意点

- 栄養剤の注入前には、チューブの挿入長がずれていないかなどを必ず確認すること。



* (公社) 日本看護協会 医療看護安全情報

- 医療・看護安全管理情報「経鼻栄養チューブの誤挿入・誤注入事故を防ぐ(2002年8月15日)」
http://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzen/pdf/no_8.pdf
- 緊急安全情報「経鼻栄養チューブ誤挿入による死亡事故について(2005年5月2日)」
<http://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzen/pdf/050502.pdf>

本情報の留意点

- * このPMDA医療安全情報は、公益財団法人日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業報告書及び薬事法に基づく副作用・不具合報告において収集された事例の中などから、独立行政法人医薬品医療機器総合機構が専門家の意見を参考に医薬品、医療機器の安全使用推進の観点から医療関係者により分かりやすい形で情報提供を行うものです。
- * この情報の作成に当たり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
- * この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではなく、あくまで医療従事者に対し、医薬品、医療機器の安全使用の推進を支援する情報として作成したものです。